

中央区立環境情報センター主催「川のいきもの観察会」

成井 七理

1. はじめに

令和5年度水生生物調査の一環として中央区立環境情報センター「エコノバ」主催の調査見学会「川のいきもの観察会」が令和5年7月29日に開催された（以後、観察会とする）。この観察会は区内河川等に生息する生物を知り、自然環境への興味を育てることを目的として、区内の小学生を対象として開催されたものである。当社は平成30年度にも参加しており、今回は二度目の参加となる。今回も講師として参加し、水生生物調査の方法や生物の解説等を担当した。当日は中央区立環境情報センター「エコノバ」によるYouTubeの撮影も行われ、YouTuberのエイト特派員にご参加いただいた。本稿では観察会の様子を紹介する。

2. 観察会の様子

観察会当日は応募いただいた12組の児童と保護者が参加し、総参加人数は24名であった。当初、中央区立石川島公園内のパブリック広場での野外開催を予定していたが、連日の酷暑のため中央区立環境情報センター「エコノバ」での室内開催となった。受付では平成30年度に実施した水生生物調査のパンフレット「川の中の生き物たち」と、画用紙を配布した。画用紙には児童に好きな魚を描いてもらい、後のプログラムで使用した。参加者が集まったところで開催の挨拶とともに、観察会の様子を調査しにやってきたYouTuberのエイト特派員に大きな声で呼びかけ、観察会をスタートした（図1）。

まずは座学として、中央区を流れる代表的河川の隅田川について皆でイメージを共有し、中央区が隅田川を中心とした河川環境でどのような調査を実施しているかその意義や内容について説明した。

座学が終了した後、調査器具の実演と体験、バックテストを用いた水質測定、採取した生物の展示と解説を実施した。

はじめに投網の実演として、描いてもらった魚の絵を床に並



図1 川のいきもの観察会の様子



図2 投網の実演

べてもらい、実際に投網を投げることで、どんな仕組みで生物を獲っているかを説明した（図2）。大きさの関係上、児童に投げてもうことはできなかったが、エイト特派員に体験していただき、投網を投げることの難しさについても説明した。

調査器具の体験では、調査で実際に使用した漁具、採泥器、採水器の3班に別れ、それぞれの使用方法、器具の重さなどを体験してもらった。採泥器、採水器は室内での開催ということで、実際に採水や採泥を体験させてあげることはできなかったが、器具に触れ、実際に体験することで「重い!」や「(バンドーン採水器の音に)びっくりした!」などの感想があがった。漁具の説明では使用方法に加えて、魚類等の水生生物の生

態に合わせた仕組みになっていることを説明した。

バックテストを用いてのCODの測定では隅田川の水、水道水、炭酸水、砂糖水の4種類のサンプルを用意し、実際に測定してもらうことで、身の回りにある水と河川水との違いを見比べた。水質測定の時間が終わった後も、一部の児童は保護者の飲料水や、自分のジュースなど、積極的に調べる様子が見られた。

採取生物の展示と解説では採捕した生物を水槽に入れ『おさかなコーナー』『カニコーナー』『いしのうえのいきものコーナー』としてそれぞれ展示した。また、タライに底生魚を入れた『おさかなタッチコーナー』も用意した。川のいきもの観察会のメインということもあり、筆者が案内を言い終わる頃には、ほとんどの児童がタッチコーナーに集まる大盛況であった。はじめは生物を乱暴に触れてしまう児童も、講師から魚類との適切な触れ合い方を学んだようで、タッチコーナーの面々は観察会の終了まで生き活きとしていた(図3)。

観察会の終わりには、児童数名に今日学んだことを発表してもらった。「ハゼのしっぽを触るとザラザラしていた。」など、実際の生物に触れることでしか気がつかない事を学んでもらえた。

観察会終了後は、YouTubeの撮影として、調査器具の解説や、展示生物の解説などの収録を行った。観察会に参加できなかった人でも、動画を視聴することで調査器具や、身近な河川で採取された生物について学んでいただけるよう、丁寧に説明した(図4)。



図3 大盛況なタッチプールの様子



図4 YouTube撮影風景

3. 観察会を終えて

中央区立環境情報センター「エコノバ」では講座・イベント時にアンケートを集計しており、内容について、満足、大変満足という評価をいただくことができた。児童からは「いろいろな道具、魚が見られてよかった。」「人が汚したところは責任持ってみんなできれいにする。ポイ捨てなどしないようにする。」「もういっかい行きたい。もういっかいやりたい。」などの感想が得られた。参加いただいた皆様は、既に生物などの自然環境に対して、興味関心をお持ちの方が殆どとは思いますが、観察会を通して、より一層の興味関心を育てていただけたらと思う。

観察会での反省点として、前半の座学の内容が参加した児童の年齢層(小学校低学年)にあっておらず、難解なものになってしまっていたこと。また、室内での開催ということで、調査器具の体験が一部省略されてしまったことである。前者は講師を担当した筆者の実力不足であり、今後は児童に分かりやすい内容に変更し、より良い解説ができるように努めていきたい。後者では、前回の観察会の反省を活かし、熱中症リスクの回避として、室内への変更を行ったものの、児童からは「次は公園に行きたいです。」「実際に道具を現地で使って見たかったです。」「かわにいきたい。」「もういっかい行きたい。もういっかいやりたい。」など、現地での開催や、実際に調査器具の体験を望む声が多かった。次回開催時には、テントやタープによる日除けの設置や、開催時期の変更など、現地での開催をしつつ、参加者の健康面に配慮した企画運営が必要である。

4. 終わりに

筆者は学生時代、児童やその保護者を対象とした観察会などのイベントに参加したことがあったが、今回の観察会はYouTuberの参加や、室内での生物展示、調査器具の体験等、いままで経験したことのないイベントであった。特にYouTuberの参加、撮影などは緊張する場面も多くあったものの、観察会を大きく盛り上げることができ、講師としては非常に楽しく貴重な経験になった。近年では小学校低学年でもスマートフォンなどを所有し、webサイトや動画コンテンツにふれる機会が多くなっていると聞く。そのため、今後は他の業務でもYouTube等を利用した環境啓発活動があるかもしれない。その際には今回の経験を活かしていきたい。

当日の様子については中央区立環境情報センター「エコノバ」のYouTubeチャンネルで公開中である。興味のある方はぜひ一度ご覧になっていただきたい。

最後に本稿の掲載を許可していただいた中央区立環境情報センター「エコノバ」様に深く感謝申し上げます。



図5 エイト特派員との一枚

